

## 第5回ワーキンググループ会議

### 【鑑賞WG】 議事要旨

**日時**：平成28年11月9日（水） 13：30～15：30

**場所**：本庁舎2階 21会議室

**出席**：委員3名、事務局4名、北大3名

**議題** 「ついで利用」、「フレキシビリティ」について

#### ■ 今後の予定について

##### スケジュールの変更点

- ・ 展示・窓口WGでとまこむの編集者をゲストスピーカーに招いて勉強会を行ったことや、市民フォーラムの内容をWGでも共有するため、当初の予定に若干の変更を行いたい。次回のWG会議では、市民フォーラムの報告と共に、その内容と関連するキーワード「機能連携」と「まちづくり」についての意見交換を行うことにしたい。
- ・ 今年度の最後に行うWG会議では、全てのWGを合同し、各々のWGで出されてきたアイデアを共有し、今年度の成果をまとめていきたい。

#### ■ 苫小牧版アイデア集の紹介

##### キーワード「無目的利用」に関するアイデア

1. とまチョップ・アート&カルチャーポイント
  - ・ 現在、市で実施しているとまチョップポイントと連携し、コンサートなどの公演を鑑賞した際やイベント参加時にポイントが貯まる仕組みである。また、施設に来訪したことをSNSで発信するとポイントが貯まるなど、無目的利用を促すために、まずは施設に来訪してもらうための仕掛けをつくっていくというアイデアである。
2. 週刊おすすめリレー
  - ・ 例えばヒップホップが好きなDJがダンスに最適な音楽を紹介するコーナーを設けるなど、市民独自の視点で情報を発信していくアイデアである。施設を訪れることではじめて得られる情報や体験をすることで、施設に足を運んでもらうきっかけをつくっていくアイデアである。
3. 週末マルシェ de ライブ
  - ・ 外部空間で行う文化芸術活動への気軽な参加を目的とした無料のイベントである。施設の中ではなく外で行うイベントを実施することで、文化芸術活動に関心の薄い市民も対象にできるという利点がある。

## キーワード「定常・定期利用」に関するアイデア

1. あなたに魅せる公開リハーサル
  - ・ 演劇やダンス、コンサートなどのリハーサルや練習の様子を公開する取組である。市民は施設の活気を感じることができ、文化芸術団体は本番前に市民からのフィードバックを受けることが出来るなど双方にとって win-win の関係を築くことができるアイデアである。
2. NO MORE 交通事故キャンペーン
  - ・ 利用割引などの特典を設け、施設を利用する文化芸術団体にコンサートなどの公演の前に交通安全などの啓発活動の役を担ってもらうアイデアである。文化芸術団体が啓蒙活動をすることで、当事者意識が芽生え、意識を高めてもらうことも考えられる一石二鳥のアイデアである。
3. 空き部屋活用不動産
  - ・ これまでの利用履歴や文化芸術団体との日常的なやりとりなどを参考に、空いた諸室をうまく活用してくれそうな団体に企画を持ちかけ、空き諸室でのイベントを考える組織の提案である。空き室を減らし稼働率を高めるとともに、企画内容を工夫することで文化芸術団体の連携や相乗効果も考えられるアイデアである。
4. お手軽文化講座
  - ・ 楽器やダンスなどのスキルを持った市民が格安でレッスンの機会を提供する講座である。長年アマチュアとして活動してきたお年寄りの演奏者が市内の小・中学生に楽器演奏を指南するなど、日常的には接点の少ない世代が文化芸術を通じて交流を図ったり、文化芸術活動に敷居が高いと感じている市民に気軽な参加を促すことができたりするアイデアである。
5. なかま to ナカマ
  - ・ 市民からやってみたいことを募集し、それらの活動への賛同者を募り実際に共用空間で実施する市民参加型の活動である。市民のやってみたいという気持ちを着実に実現していくことで、施設のにぎわいや活動の回数を増やしていくアイデアである。(坪内)

### ■ 前回の振返りを受けて

#### お手軽文化講座について

- ・ 普通は大人が子どもに教えると考えてしまうが、そうではなく子どもが大人に教えるということも考えられるのではないか。人に何かを教えたり、年上の人と接したりする体験は、子どもにとっては貴重な社会経験となるだろう。

### ■ キーワード「ついで利用」について

#### コミュニケーションにより人がつながる場所の創出

- ・ 市民フォーラムでの衛館長の話を受けて、コミュニケーションをとることが重要だと

感じた。来訪した際に一人で好きに時間を過ごすだけでもいいが、館のスタッフとコミュニケーションをとることで、スタッフが来訪者同士をつなげていくことができるようになる。ついでに立ち寄り、そこでコミュニケーションをとることで人のつながりをつくれると面白い。

### 統合する施設の特徴を組み合わせる重要性

- ・ 複合するそれぞれの施設の特徴の良いところを引き合わせ、複合施設としての相乗効果を狙ったアイデアを考えていきたい。科学センターで行っているイベントと交通安全のイベントなどを組み合わせて行うのも面白い。また、確定申告など定期的に来訪が見込める使われ方を新しい施設で行うことで、来訪のついでに文化芸術活動の情報が目に入るなどのアイデアが考えられる。
- ・ 住民票を取るついでなど、文化芸術に関係ない活動を新しい施設で行うことで、文化芸術活動に関心のない市民の来訪のきっかけをつくることができる。文化芸術活動以外の活動も、新しい施設にとっては重要な要素となり得るのではないか。

### 人が注目するような工夫をすることで情報を発信する拠点

- ・ 先日、宣伝映像が流されているテレビを小学生がかじりついて見ていた様子を目撃した。例えば動く看板などを設けることで、子どもだけでなく、大人も足を止めるきっかけになるのではないか。
- ・ facebook や twitter など SNS の発信源となるステーションとして、苫小牧の情報を総合的に得られる場所にしたい。

### 不用になった物の交換・共有ができる拠点

- ・ ある企業が要らないものを別の企業では欲しがっている場合がある。市民ホールを不用になった物同士を物々交換が出来る場所にするアイデアが考えられる。例えば畳の切れ端が人形を創作する人にとっては飾りになるなど、市民ホールに要らないものを持っていくとリサイクルができる拠点を設けてほしい。
- ・ 過去に子育てサークルを運営していた際に、着ることのできなくなった乳幼児の服などを物々交換していたことがあった。子どもの物で時期が過ぎると不用になるランドセルや制服なども交換ができる。
- ・ 苫小牧民報社で行っている、不用品ダイヤル交換市が現状ある中で近い活動であり、そこでは「〇〇ゆずります」「〇〇が欲しい」というメッセージが発信できる。
- ・ 昔であれば掲示板を見て連絡を取ってやりとりをしていたことが、施設を介してイベント的・恒常的に行われるアイデアであろう。複合施設の特徴を生かし、リサイクルの活動ができれば面白い。
- ・ リサイクルプラザでは、学習機やタンスなどを修理して市民限定で販売しているが、

リサイクルプラザは立地的に遠く、自家用車でなければ行くことができないのが問題である。

- ・ リサイクルするものとして段ボールなどは一般的であるが、もっと多種多様なものが回収できる場所であってもよいのではないか。
- ・ 例えば、持ち込まれた不用品が誰にも利用されずに残る場合には、何かイベントの際にアート作品などの材料として活用することも考えられる。

### それぞれの年齢層に合った利用を実現する施設

- ・ ビジネスマンであれば朝活の場、学生であれば放課後のミーティングスペースなど、年代に合わせて異なる利用が可能な場所にしたい。

### 食と関連付けることによる来訪目的の創出

- ・ 例えば、グランドホテルニュー王子であれば、宿泊はしないがパンを買いに行くなど施設に直接の用事が無くても足を運ぶ人はいるので、何か食に絡めたことを行いたい。
- ・ 例えば東京駅では、月 1 回くらい販売コーナーの内容を変えていて、季節感も感じられ、いつ訪れても新鮮味がある。季節ごとに商品を変えるなど、視覚的に変化のつけられる店舗をつくってほしい。
- ・ 池袋の西武にあるイトインでは、一週間ごとに販売店舗が変わり、全国の有名な食べ物を購入できる。苫小牧で行うのであれば、市内の様々な店舗の商品を販売し、イトインができるのであれば軽食を一定期間販売することで施設の魅力の一つになるのではないか。
- ・ 苫小牧市民は新しいもの好きであり、一度流行った店舗もすぐ潰れてしまう傾向にある。定期的に担当を変えて販売することで、市内の飲食店の応援になるのではないか。また、なかなか足を運べない市内の店舗でも、誰もがアクセスしやすい立地であれば気軽に買いに行くことができる。
- ・ 食べ物を販売するマーケットを開催することで、施設への来訪が期待できるのではないか。また、その際に高齢者世代は野菜、子育て世代はパン・お菓子など各世代で関心のありそうなものを販売するのが効果的なのではないか。
- ・ まずは施設に行くきっかけをつくることで利用につなげるという視点が重要である。
- ・ 食や住民票の手続など全ての人が関係するものをひと工夫することで、ついで利用のきっかけになってくる。
- ・ 事例で紹介した上郷クローブ座では、地域内で行っている芸術祭を食と関連させ、住民がイベントに参加することで住民の関心を高めている。

### ■ 具体的な活動のアイデア

#### スポーツに関するイベントの開催

- ・ 過去に自分の会社でスリー・オン・スリーの大会を開き、30 人程度の集客があった。

苫小牧市は、今年スポーツ都市宣言 50 周年なので、これを機にスポーツを絡めた活動を継続して行っていきたいと考える。

#### 高齢者のハレの場となる発表会の開催

- ・ 豊川コミュニティセンターを利用していた際に、2 週間に一度程度の頻度でお年寄りの方が舞踊・カラオケをしている団体を見ていた。毎回衣装まで用意し、練習発表会を行っており、お年寄りの方にとって非常に生きがいになっているように見えた。一度部屋の予約が被ってしまった際に叱責されてしまった経験がある。
- ・ ある特定の人が施設の専有化をしているのは課題であろう。
- ・ 普段はコミュニティセンターで活動しているお年寄りの方に対して、敬老の日などの特別な日にホールで歌合戦をしてもらうのはどうか。いくつになっても着飾って人前に出ることは楽しいことだと思うので、ハレの舞台としてホールを活用してほしい。

#### 芸術の発信地として音楽関連のショップの設置

- ・ 音楽関連、ダンス関連の商品が買えるショップがあるといい。美術館に併設されているショップで普段は手に入らない美術に関連するものが買えるように、音楽関連でもそのような店舗があるといいのだが、現在は札幌やインターネットでしか手に入らない。苫小牧でも音楽関連の商品が気軽に手にとれ、音楽の発信地となるような機能を取り入れたい。

#### 定期的に年代に関係なく関心のあるイベントの開催

- ・ スクリーンを利用した映画上映を行うなどのイベントを定期的に行うことで、安定して来訪者が見込めるのではないかな。
- ・ 市内の小中学生の絵など、多世代で関心のある展示を行うことで利用者が増加するのではないかな。
- ・ 可見市文化創造センターでは、公演のついでに、歌舞伎を学ぶといったイベントのついで利用がされている。
- ・ 八戸ライトショーフェスティバルでは、地域資源を生かしており、施設外で行っていることがポイントになっている。

#### ついで利用を誘発する公共交通の拠点

- ・ 様々なバスの停留所があれば、バスを待っている間に施設のついで利用が期待できるのではないかな。

#### 苫小牧の魅力をアピールする空間

- ・ 過去にウトナイ湖など苫小牧各地を回り苫小牧をアピールする映画の撮影に参加した

のだが、各地に行くのに時間がかかった。例えば、施設の壁全体に大きな写真や絵を展示し、施設に来たら苦小牧の魅力的なスポットを視覚的に知ることができるというのはどうか。市内には誇れる場所が多くあるが市民はそのことを意識していない。もっと市民が苦小牧の魅力を意識できるきっかけにしたい。

## ■ キーワード「フレキシビリティ」について

### 様々なイベントに対応可能な施設

- ・ 姫路文化センターは大中小ホールと、対面して会議室などが並列につくられていて、会議室の方はパーティションで仕切ることで大空間にも小空間にも利用できる。休憩所として椅子の置いてある場所があればという意見があったが、そういった場所も出来るのではないか。
- ・ 市内の音楽やダンスなど各団体の連携で何かを作り上げる市民参加型の活動をすることで市民同士のつながりがつくることができるのではないか。また、その際に様々な活動に対応して客席やステージを自在に変化できることが望ましいと考える。

### 雨天時に子どもを遊ばせることが可能な空間

- ・ 子を持つ母親としては、室内に遊具を設置して、雨の日に子どもが思いっきり遊べる場所を設けてほしいと考える。公共施設の大きな空間であれば、大きな遊具など一般家庭では用意できないものも設置することができるのではないか。
- ・ 千歳アウトレットモール・レラのような子どもが遊べる場所が苦小牧には無い。

### 多種多様な利用を実現

- ・ 舞台面積が大きければ、小さく利用することもでき、結果様々な利用をすることができる。現状では市民会館の舞台は広く、文化会館は面積的に少し満足できない部分がある。
- ・ 例えば、京都劇場の座席数は1,000席程度だが、設備は大劇場並みの設備が整っている。また、ノルウェーのストーメン文化施設はコンサートホールを劇場に変化させることができ、さらに地下にはジャズとロックのクラブがあり、音楽を様々な側面から楽しむことができる施設である。2つホールをつくれないのであれば、可変性のある施設を設けることで市民のニーズを実現できるのではないか。

### 利用形態にもフレキシビリティを持たせる重要性

- ・ 稼働率を上げる策として、時間単位での利用ができるようになれば、特定利用者の専有化も防ぐことができ、より多くの市民に利用者されるのではないかと。また、期限が近付くと安く借りられる仕組みを導入することで、市民も利用の機会が増えるのではないかと。

### 各々の目的に沿った利用が可能とする工夫

- ・ 何にでも使える多目的利用を想定して計画した諸室が何にでも使えるが故に使い勝手が悪くなってしまうというケースも多い。今回の複合化した施設でそれをどう解消していくか考えたい。
- ・ 茅野市民館では、通常とは反対に、メインホールを多目的利用を可能な場所にし、サブホールをプロ仕様の設備の整った場所に行っている。
- ・ 金沢市民芸術村では、ライブペインティングチームバトルというイベントを行っている。作品の完成した後も部屋に飾っておくことで、コミュニケーションのきっかけになっている。
- ・ 可児市文化創造センターでは、市民が希望する活動に対して柔軟に対応し、実現できる組織がある。施設を使いこなすことができる組織の存在が重要である。

### ■ ホールの位置付けについて意見交換

#### 活動のアイデアを実現可能とする施設計画の重要性

- ・ 鑑賞部会は内容の専門性が高い分野である。各 WG メンバーそれぞれが活躍されている専門の場がある中で、各々が考えるホールの位置づけを知りたい。茅野市民館の例を参考に、仮にメインとサブのホールがある場合を考え、各ホールの役割について意見交換をしたい。
- ・ ホールはプロ仕様と、多目的利用の 2 つあるのが良いと考える。
- ・ 今までの話合いの中でプロの演奏ができる場所が必要であるとは感じるが、それと同時に今まで話し合ってきた活動を実現できるホールを考える必要がある。その際に、多目的に利用できるホールの方は、ホールの概念に捉われずに議論してはどうか。例えば茅野市のマルチホールは、客席もステージになり、外の芝生とも連続していてホール全体をステージとして捉えることもできる。
- ・ 客席や舞台を様々な場所に設定すると考えたとき、例えば屋外イベントを開催する際に、雨天でも室内に移動してイベントができるような施設になっていると様々なイベントに対応できると考える。
- ・ 茅野市民館ではロックフェスを行っており、主催者の話では雨天でもイベントが実施できる点が茅野市民館の魅力であるということである。
- ・ 茅野市のマルチホールは椅子が可動式になっており、音響的な効果は多少低くなってしまうだろう。
- ・ 現在は比較的小規模なホールでも壁を開閉して音響を調節できる設備がある。フレキシブルな利用に対応する音響設備はある。

#### 様々な演出に対応可能なステージ

- 多目的利用が可能なホールは床面がフラットにもなるし、ステージを上げるようにもできると面白い。例えばホールの中心にステージがあれば、普段は前からしか見ることができないものが、普段と違う角度で見ることができる。距離の近さが、今まで文化芸術に関心の無かった人の興味につながるのではないか。
- よくコンサートに行くと、1部と2部でステージが作り変えられたりしている。ステージの作り方はイベントごとに様々であるから、多様な場合に対応できるスペースを用意してその都度舞台を仮設的に設置していく方が現実的なのではないか。
- 椅子を固定するのであれば、前の席だけ取り外しできるようにしてほしい。そうすることで席の前の部分をオーケストラピットなどにも利用できるし、舞台の一部としても利用でき、演出の幅が広がると考える。

### 座席数を増減が可能なホール

- 苫小牧でのホールの適正規模の考えとは別に、1,000席程度のホールが良いというのは演奏家としてよく分かるが、苫小牧市で吹奏楽の地区大会などを開催している現状を考えると、現状から大きく座席数を減らすことには懐疑的である。ぜひ吹奏楽関係者とも話し合ってほしい。
- 席配置を2階構成にして札幌コンサートホールKitaraの小ホールのように1階だけであれば1,000席、2階も開放すると1,300席になるといったように、規模を変えられる形にすれば市民にも使いやすいのではないか。

### 施設全体をホールとして捉えた際の活動の可能性

- 漠然と扉が閉まるホールをイメージしているのではないかと思うが、それだけではなくオープンスペースが舞台や客席にもなるのかもしれない。半屋外やホワイエと呼んでいる場所も含めてホールの使い方を考えていく必要がある。
- フランスでは6月21日を音楽の日として、町中のどこでも演奏ができるようになっていたのだが、フランスでの取組と同様に例えば屋外で金管楽器の演奏をやったり、室内ではバレエをやったりと、施設の敷地内のあらゆる場所で様々な分野の音楽を聴くことができる、というのはどうか。
- 目的の演奏を聴いたついでに他の音楽にも触れられるという、ついで利用も期待できる。音響設備にこだわることも大事だが、まずは音楽に触れることが重要でありその機会づくりになるといい。

### ステージ周辺の空間構成の工夫

- ホワイエにレストランやショップが並んでいるのはどうか。ホールを出た後も演奏会の余韻に浸れるような空間として、お酒が飲めるような場所の提供が良いのではないかと考えた。お酒に限らず飲食のできる空間がホワイエと一体となっており、滞在す



ることもできると良いのではないか。

- ・ 苫小牧市民会館のホワイエはホールを使用しない時は施錠し何にも利用していない状態である。しかし、最近のホワイエの作り方は可児市のようにロビーとホワイエを兼用し、今までチケットを購入しないと入れなかったホワイエが自由に行き来できるようになっている。

## ■ 検討委員会の進捗報告

### WG を横断し実現可能性を考慮したアイデアの議論

- ・ 各 WG 会議で話し合われたアイデアを検討委員会で報告し、体系的にまとめている。今回、すべてのアイデアを「育てる・集う・知る・関わる・つなぐ」の 5 つの事業に分類した。事業別に見た際に各 WG に共通するアイデアがあるため、WG で連携してより実現可能で具体的な活動を議論できるようにしたいという意図がある。

## ■ 事例勉強会の感想

### 思春期の子どもを対象とし、親子で参加可能な活動

- ・ 市民フォーラムの際に、可児市にある生徒の半数が退学してしまうある高校が演劇を行いはじめ、次第に退学者が減っていったという話を聞いて、思春期の子どもに向けたイベントをしたいと考えた。例えば、母の日・父の日などに親に感謝の気持ちを持つような映画を親子で見るイベントを設けるのはどうか。その際親と一緒にであれば子どもはチケット代を無料にしたり、全市の中学 1 年生を対象に案内を出したりすることで、金銭的に映画のチケット購入が難しい家庭の支援として、事例にある「私のあしながおじさんプロジェクト」のように発展できるのかもしれない。映画を観賞することで親子の絆もつなげられる活動を行いたい。

### 芸術を鑑賞するだけでなく活動に参加する重要性

- ・ パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）を苫小牧市で開催しているが、あまり集客がない。やはり芸術に関心のある人が少ないというのが実情なのだと思う。例えば市民オーディションを行い、PMF と一緒に演奏ができるようにすることで市民の芸術への関心が高まるのではないか。
- ・ 演奏会後に指揮者・奏者も客も参加できる打上げがあるといい。指揮者と会話することで観客もより演奏を深く理解することができ、奏者側も苫小牧での演奏にやりがいを感じる事ができる。奏者と客のつながりをつくる事が大事だと思う。

## ■ 今後のスケジュール

次回（第 6 回）：1 月 20 日（金）13:30～@市役所北庁舎 3 階会議室

次々回（第 7 回）：2 月 22 日（水）13:30～@市役所 2 階 21 会議室